

令和3年度 大阪府立登美丘高等学校 第2回学校運営協議会 記録

○日時：令和3年9月11日（土） 緊急事態宣言下のため書類開催

○場所：スラックによるデータ送信及びオンデマンド説明・10月15日までの意見改修

○出席者：藤井暢人（桃山学院大学経営学部講師）、平山 雄一（虹ヶ丘地区自治会長）、薬師寺 広隆（第一ゼミナール金剛校 校長）、笈廣 啓史（同窓会長）、荒木 華子（PTA 会長）、天野信治（野田中学校長）（敬称略）

○欠席者： なし

○事務局：校長、教頭、益永首席

<次第>

校長によるオンデマンド説明

1. 大阪府立学校における新型コロナウイルス感染症の状況報告

2. 報告

①令和3年度学校経営計画進捗について

「非認知能力醸成手法の立ち上げ」

「手段としてのICTの実践」

②「100周年・生徒の当事者意識醸成」準備状況報告

③教科書選定報告

④その他（地域に愛される学校をめざすにあたっての行動計画進捗について）

3. 協議（書類・及びオンデマンド説明に対する意見集約）

○いただいた主な意見・質問等

・8月末から9月初頭にかけて、コロナの拡がり想像以上に大きかったこともあり、そんな中での学校行事開催、ご苦労も多かったかと思えます。コロナ禍の中、今までとは異なる取り組みに、生徒たちは順応しているように見受けられましたが、それでも、不安やわだかまりのようなものはあるかと思えます。これから受験シーズンになるにあたり、特に我慢を強いられ続けている現高校三年生の心情に寄り添った対応を願っております。ご報告の中にあつた、非認知能力の件、コロナ禍の世界を見るに、予測不能社会への対応力こそ、教育において子どもたちに育てていかなければならない力だと思えます。その点で、さまざまな取り組みをなさっていることに期待しております。

・100周年に限って考え等を述べます。

この100周年、何といたっても「盛り上がり」が大切です。卒業生の盛り上がり、在校生を盛り上げるための先生方の創意ある指導、取り組みも必要と感じています。そうした中で、この間、学校が提起された卒業生からのメッセージ、旧職員のメッセージは卒業生にとっては登美丘高校への思いを復活させ、在校生にとっては愛校心を醸成させて、100周年を契機に登美丘高校の新たな発展の契機になって欲しいと願っています。文化部作成の100年ポスター、在校生の意識向上にとっても良い取り組みと思えます。100年ダンス、他の例をみない特色ある画期的なものと思えます。来年6月の同窓会総会での初披露を何としても多くの方に見てもらいたいと思えます。

（座長まとめ）

非認知的能力につきましても、今後求められる能力であることは間違いないかと存じます。貴学の生徒においても「やりぬく力」を獲得してほしいと考えています。もちろん、具体的なレベルで非認知能力が高校生活において何を意味するのか、どのようにその醸成を評価するのか、といったことも課題として検討していく必要があるでしょう。このような課題があるにせよ、必要な取り組みかと存じます。

以上、山本校長先生の動画や資料より、貴学の教育を理解することができました。引き続き、よろしくお願い申し上げます。

*第3回：令和4年1月25日（火）14時～16時予定